

第5章

重点取り組み

5.1 重点取り組みの設定

(1) 重点取り組みの位置付け

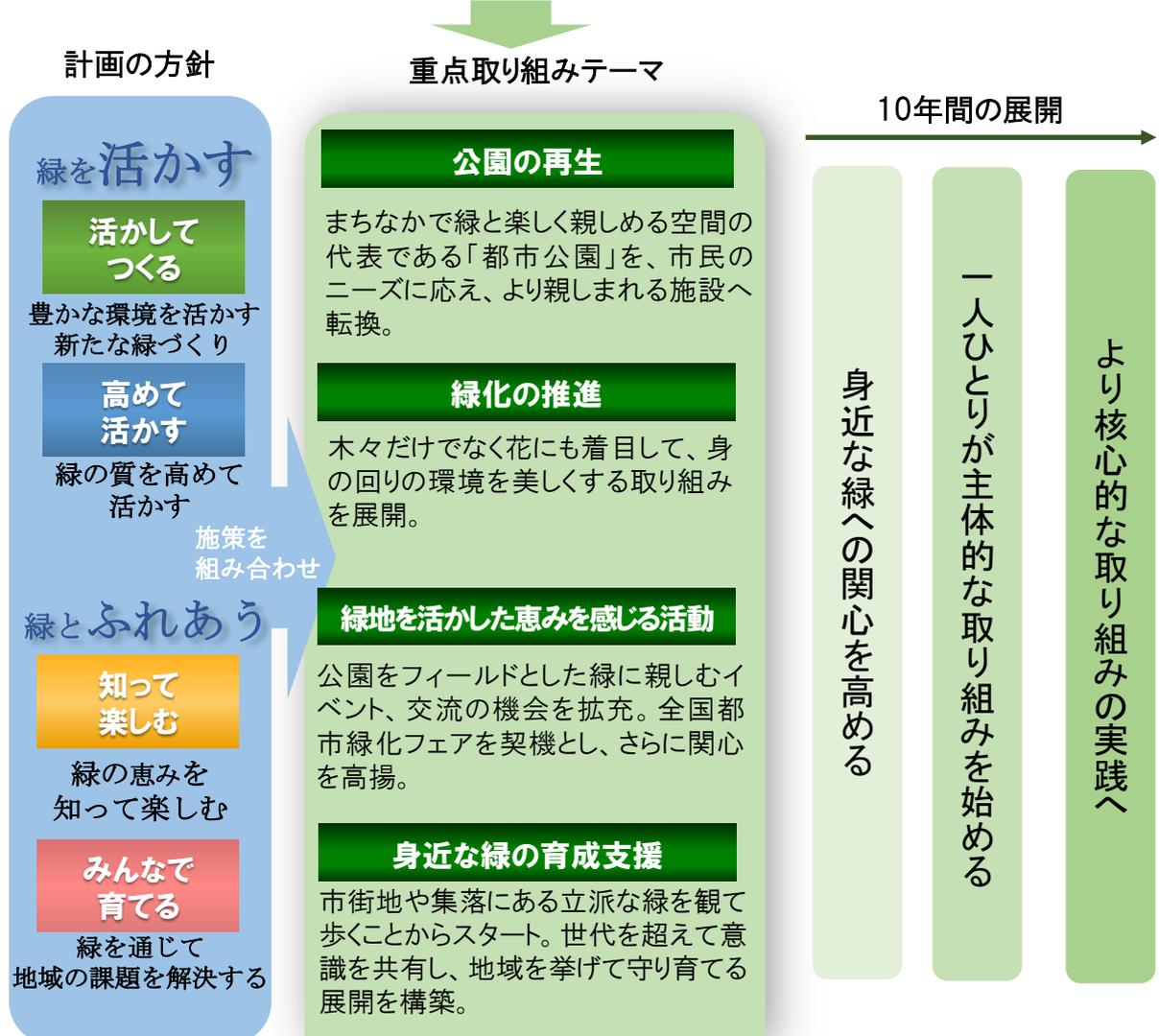
重点取り組みは、第4章でまとめた施策に沿った取り組みのなかから、本計画の主対象である市街地や集落における緑を対象に、向こう10年でとくに重点的に進めるべき取り組みを見出し、具体的に進めるための事業展開を年次でとりまとめたものです。

重点取り組みの着眼テーマは、第2章でまとめた市街地や集落における緑を巡る課題もふまえ、「公園の再生」、「緑化の推進」、「緑地を活かした恵みを感じる活動」、「身近な緑の育成支援」の4つに定めます。

計画の基本方針である“活かす”施策と“ふれあう”施策に示された取り組みを組み合わせ、効果的に進めます。

- 計画の着眼点
- ① 緑の活用による **実りや楽しみの実感**
 - ② まちに対する **美意識** を向上させるための仕掛け
 - ③ 地域と行政が、お互い上手に助け合えるシステムの **構築と育成**
 - ④ **緑のよさ、ありがたみ** に気付き、実感できる持続的な取り組み
共有の財産・宝 という価値感・意識の醸成

4つの着眼点を都市・集落の身近な緑で展開



重点取り組みの展開に関する考え方

緑に関する困りごとや、緑は厄介者である、というイメージが生まれつつあることを考慮し、その解決につながる取り組みを優先して進めます。

○公園等の共有の緑のスペースでは:

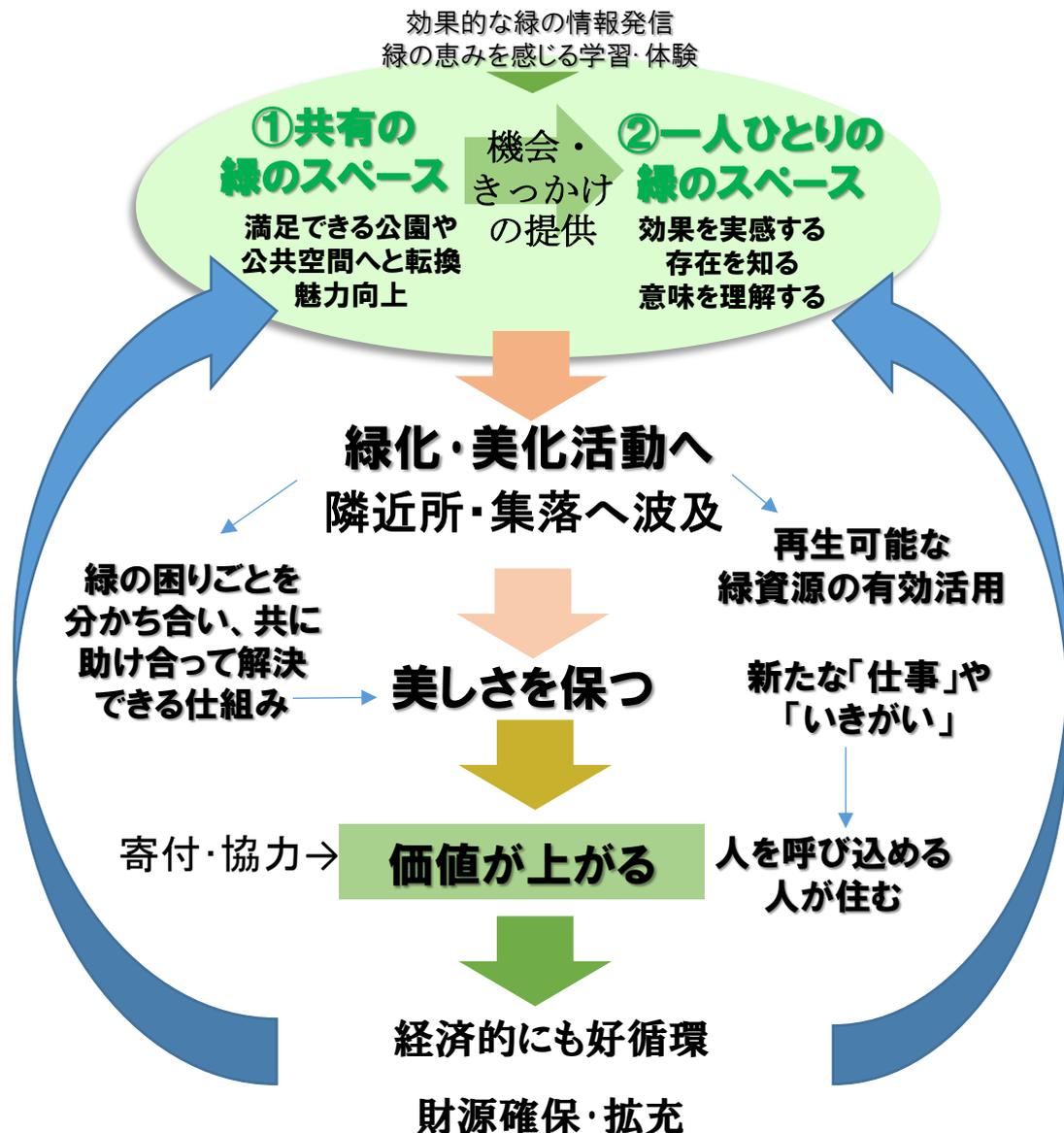
満足できる公園や公共空間へと転換させ魅力を向上させていくことが重要です。緑とのふれあいの機会、きっかけの提供を行い、関心を促すことに重点をおいてスタートします。

○一人ひとりのスペースでは:

個人の庭などの身近な緑とふれあうきっかけを提供する取り組みを優先します。

これにより、個々の緑化・美化活動のベースができ、各地でこの取り組みが積み上げられ、蓄積されます。

その結果、美しさが生まれ、これが保持されることで、安曇野の緑輝くまちとしての価値も上がり、経済面でも潤いをもたらす好循環を生み出すことにつながります。



5.2 重点取り組みの内容

第4章に掲載した計画実現のための22の施策に沿った取り組みのなかから、本計画の主対象である市街地や集落における緑を対象に、向こう10年でとくに重点的に進めるべき取り組みを見出し、その展開を具体化しました。

★初期

身近な緑への関心を高める

★中期

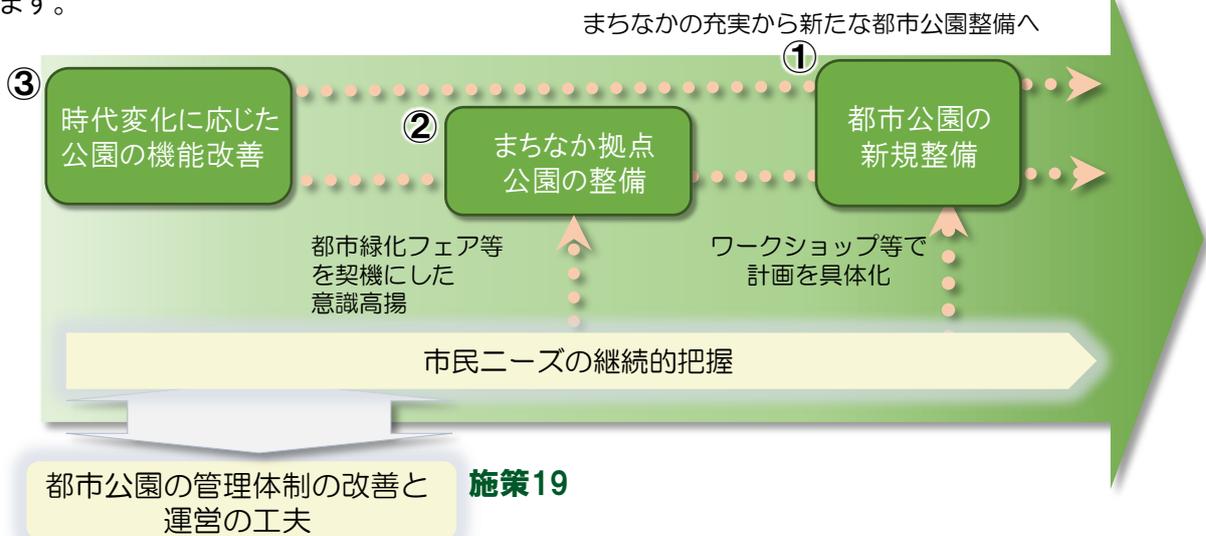
一人ひとりが主体的な取り組みを始める

★後期

より核心的な取り組みの実践へ

重点テーマ1 公園の再生

既存拠点公園のリニューアルや身近な小規模公園の遊具更新を継続して行います。また、住区基幹公園の拡充に取り組み、市内の公園、オープンスペースの一層の充実と充足を図ります。



① 都市公園の新規整備の検討

施策1.7

市内全体の公園の配置状況を見ると、公園の配置が少ない、公園の整備密度が疎な地域がみえてきます。また、緑のまちづくりに関する市民アンケートでは、自宅から近く、身近に行きこことができる場所(まちなかや集落など暮らしに近い場所)への公園整備を望む声があります。

公園整備の現状と地域のニーズをふまえ、市内の都市公園を充実させるため、都市公園の新規整備を検討していきます。

★初期：市民ワークショップを開催し、公園の必要性、得られる効果などを確認しながら市民ニーズを把握するとともに、整備場所の検討を進めます。

★中期：計画の具体化を進めるとともに、整備後の管理体制について地元地区や地域活動団体、有志等と意見交換しながら検討を進めます。

★後期：公園の配置計画や整備する施設など、具体的な整備方針を検討します。



市民参加型のポケットパークづくり

② まちなか拠点公園の整備

施策1,15,18

人口が集中する市街地の中心部では、公園やオープンスペースが不足している傾向がみられます。今後、平成31年度に中信4市での開催が決定した「全国都市緑化信州フェア」を契機とし、まちなかに潤いや安らぎを与えてくれる空間を創出するため「まちなか拠点公園」の整備を進めます。整備箇所は、市土地利用条例で定める拠点市街区域等を候補地として、官民および官学が連携しながら、整備に向けた具体化を図っていきます。

- ★初期：市街地に整備候補地を検討、全国都市緑化信州フェア関連事業の動向もふまえながら、市民、学校教育機関、行政が連携し整備の具体化を図ります。
- ★中期：整備箇所を決定し、公園の新規整備を順次実行します。
- ★後期：整備を進めながら、様々な主体が連携できる管理体制を構築し、維持管理を実施します。



③ 時代変化に応じた公園の機能改善

施策2,7,18

安曇野市公園施設長寿命化計画(平成25年度策定)に基づき、公園施設の計画的な修繕と改修を実施します。公園を利用する機会が多い子育て世代や高齢者世代のニーズに合わせた公園機能の整備拡充を図るとともに、公園利用コーディネーターを活用した修繕、改修の仕組みを検討し、様々な側面から見た公園のあり方を研究します。また、児童遊園等の小規模公園については、地域のニーズに応じて、子どもたちが安心して安全に遊べる場や、健康づくりに役立つ空間への改善を進めます。

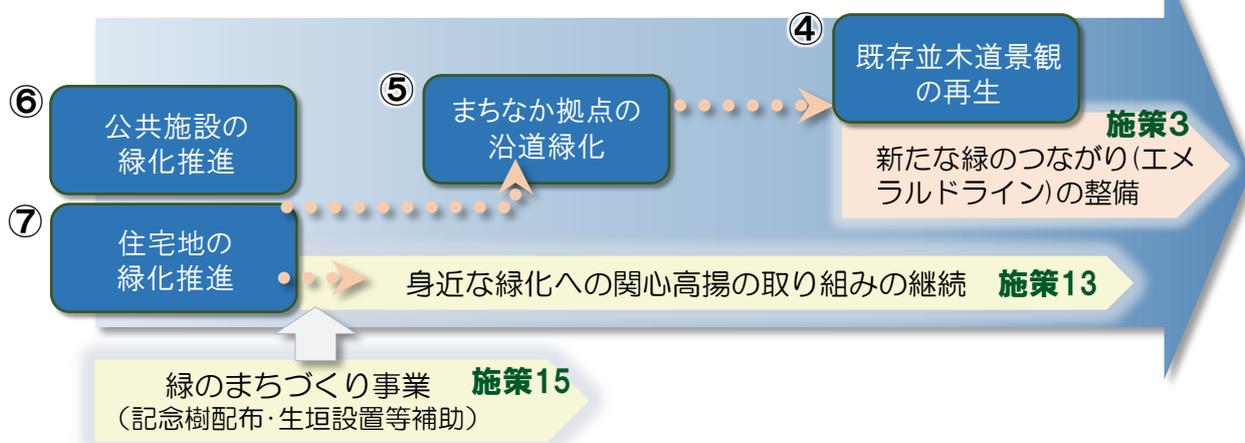
- ★初期：「公園施設長寿命化計画」に沿った公園施設の更新、改修を継続して進めるとともに、施設の劣化状況に応じて必要な修繕を実施します。また施設更新時には、本計画に沿ってその要否や今後のあり方を検討したうえで必要な改修、更新を実施します。同時に、小規模公園に対する地域のニーズを把握し、ニーズに沿った空間づくりに向けて改善方法の検討を進めます。
- ★中期：同上
- ★後期：公園利用・管理コーディネーターを養成する仕組みをつくり、施設の修繕や改修の際にはコーディネーターの意見を取り入れていきます。
また、公園利用者(主に地区住民)の世代構成などを勘案し、時代変化に対応した地域の現状およびニーズに合う小規模公園へ改善を進めます。



施設をリニューアルした豊科公園

重点テーマ2 緑化の推進

並木道や花による沿道緑化、市役所本庁舎を中心とした公共施設の緑化、個々の住宅での花栽培などの取り組みを通して、市内全域で緑と花の彩りを生み出す事業を展開します。



④ 既存並木道景観の再生

施策4,13

街路樹等の並木道は、駅前通り、安曇野ICから北上する県道沿い、山麓線沿いなど、市街地や西山山麓などの人通りや交通量のある主要な道路を中心に整備されています。こうした並木道景観は、緑の連なりを形成するとても大切な存在です。現在の並木樹木を官・民・プロの連携による適切な管理で健全な状態に維持し、緑豊かな並木道を再生、活性化します。

- ★初期：市内の並木道の現状を把握し、必要な対策(剪定方法、樹勢回復、新規植栽等)を検討、実施準備を整えます。
- ★中期：実施の優先順位など計画の具体化を進めるとともに、整備後の管理方法について、造園事業者等と意見交換しながら検討を進めます。
- ★後期：並木道の整備を順に実施します。整備後は適切な管理により、緑の連なりを維持します。

⑤ まちなか拠点の沿道緑化

施策3,4,13

安曇野市内では、アルプス花街道の取り組みによりマリーゴールドで彩られた花街道が各所にみられます。こうした既存の活動を広報等で支援するとともに、新たに市のアダプト制度※を設け、まちなかの拠点となる鉄道駅などの沿道をプランターや未利用の植栽マスを活用して美しい花で飾ります。まちなかの緑化を充実させ、心地よく歩ける緑化空間づくりに取り組みます。

- ★初期：県の取り組みを参考に、安曇野市独自のアダプト制度の導入を検討、実施準備を整えます。
- ★中期：アダプト制度を広く情報発信し、鉄道駅など周辺道路の花定植を推進します。
- ★後期：同上

※アダプト制度とは、市民・事業者の方が「里親」となって公園や緑地の清掃、管理等を行う仕組みのことです。長野県では、「信州ふるさとの道ふれあい事業」として、地域住民がボランティアで道路の環境美化活動を行い、市町村や建設事務所がその活動を支援する取り組みを行っています。

⑥ 公共施設の緑化推進

施策5,13

緑のまちづくりを推進するにあたり、市役所本庁舎周辺の緑化に取り組みます。1年を通して花が咲いている、四季の移ろいが感じられる植栽を施すなどにより、隣接する豊科近代美術館（バラ園）と一体的な公園という位置付けで整備し、美しいまちの見本となり観光スポットともなる緑の空間づくりを進めます。

- ★初期：緑化に向けた整備内容を検討し、実施準備を整え、実行します。
- ★中期：豊科近代美術館との一体的な空間づくりに取り組みます。
- ★後期：本庁舎一帯の緑空間の適切な維持管理を進めます。



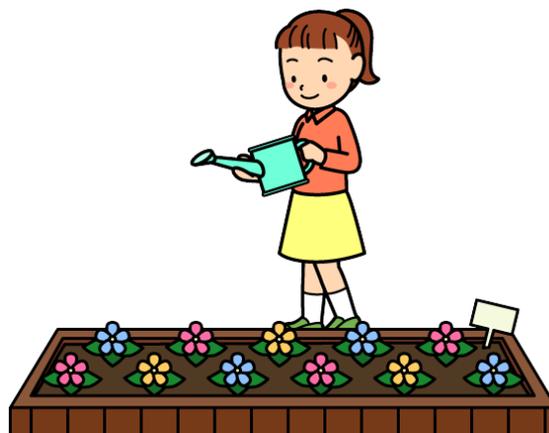
豊科近代美術館のバラ園

⑦ 住宅地の緑化推進

施策15,13

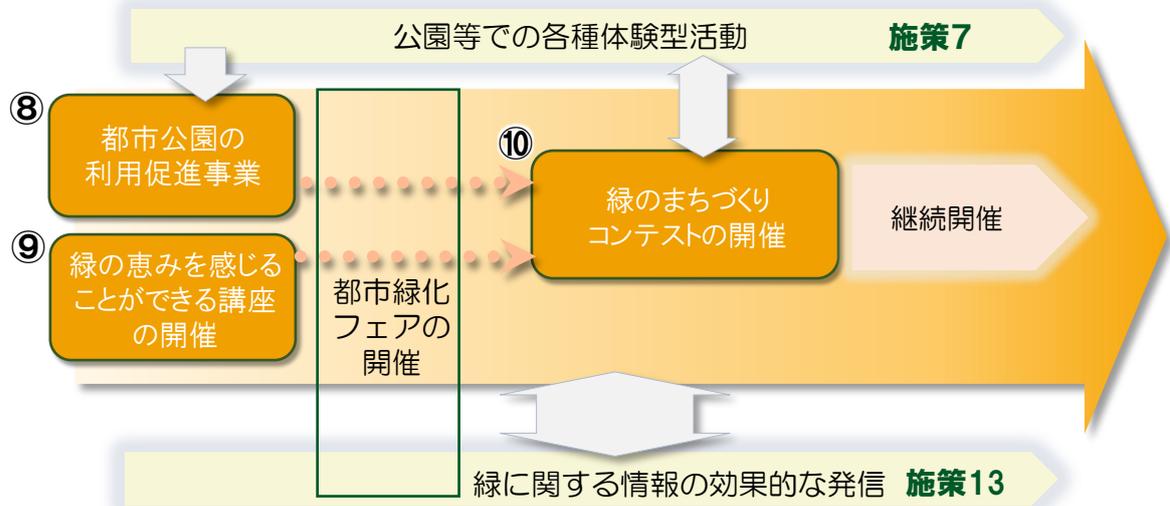
本計画では、日頃から自宅の庭やプランター等で緑とふれあう機会をもっている市民の皆さんが、自分の身の回りの緑への関心から発展し、将来的には近所や地域の緑にも関心をもち、緑のまちづくりへ積極的に参加していただけることを目指しています。その取り組みのひとつとして、「花の種銀行」を開設し、気軽に楽しく花を育てながらみんなで緑のまちづくりを進めます。

- ★初期：他市の事例を参考に、花の種銀行開設に向けて必要な仕組みや体制づくりなどの準備を整えます。
- ★中期：花の種銀行を開設し、広く情報発信します。気軽に参加いただくために、各種イベント等でPR活動を展開し、取り組みを浸透させていきます。
- ★後期：花の種銀行の利益をまちなかの緑化活動に活用するなど、運用方法を工夫しながら取り組みを推進します。



重点テーマ3 緑地を活かした恵みを感じる活動

都市基幹公園を拠点に、四季折々のイベント、子どもから大人まで緑にふれ親しむ講座、緑のまちづくりコンテストなどを企画、開催し、市民一人ひとりがより緑に親しみ、恵みを感じ、関心が高まる取り組みを推進していきます。



⑧ 都市公園の利用促進事業

施策7,13

地域の緑の拠点となっている都市公園を有効に活用する機会を増やすために、都市公園をフィールドとした体験型イベントを開催します。イベント内容は、公園の立地環境や地域のニーズもふまえながら検討します。

★初期：公園の規模や立地環境、周辺に居住する方々の世代、地域のニーズなどをふまえながらイベント内容を検討し、実施します。

★中期・後期：同上

⑨ 緑の恵みを感じることができる講座の開催

施策12

緑のもつ多様な効果、もたらされる恵みなどについて知り、活かし、生活に取り入れていくためのノウハウなどを学ぶ機会を設けることは、緑に対する興味や関心を高めることにつながり、緑のまちづくりを進めていくうえでも大きな支えとなります。本計画に基づき、誰もが気軽に参加でき、緑の恵みを感じることができる講座を各種開催します。

★初期：子ども向け、大人向け、女性向けなど、対象者ごとに関心の高い分野で内容を検討し、多くの人に参加しやすい時期、時間帯に講座を開催します。

★中期：参加者の声をもとに内容を改訂し、新しいことも取り入れながら、講座開催を継続します。

★後期：講座参加者同士の輪を、緑のまちづくりの輪へと広げながら、講座開催を継続します。



フラワーアレンジメント講座

⑩ 緑のまちづくりコンテストの開催

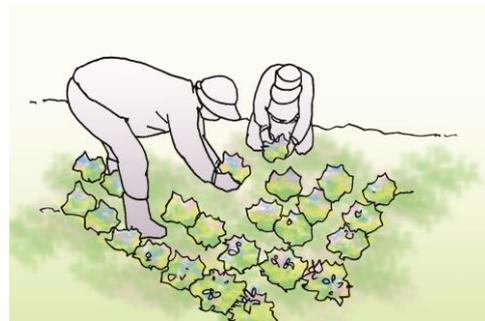
施策5,12,13,18

安曇野市内には、美しく見事に手入れされた庭がある個人邸、社屋の緑化に取り組む事業者、緑化活動に取り組む学校や地域活動団体など、緑のまちづくりに積極的に取り組む方々が多くいらっしゃいます。こうした取り組みを広く発信し、緑のまちづくりに対する意識や関心を高めるために、個人の庭、公共空間の花壇、学校での緑化などの取り組みを評価するコンテストを開催し、お互いに切磋琢磨しながら楽しめる環境をつくれます。

- ★初期：コンテストの開催に向け、実施方法や実施に必要な体制づくり、周知方法などの必要な準備を整えます。
- ★中期：緑のまちづくりコンテストを開催し、市内外に広く発信します。
- ★後期：緑のまちづくりコンテストを継続開催し、緑のまちづくりに対する意識や関心の向上を図ります。



親子で花の寄せ植えコンテスト

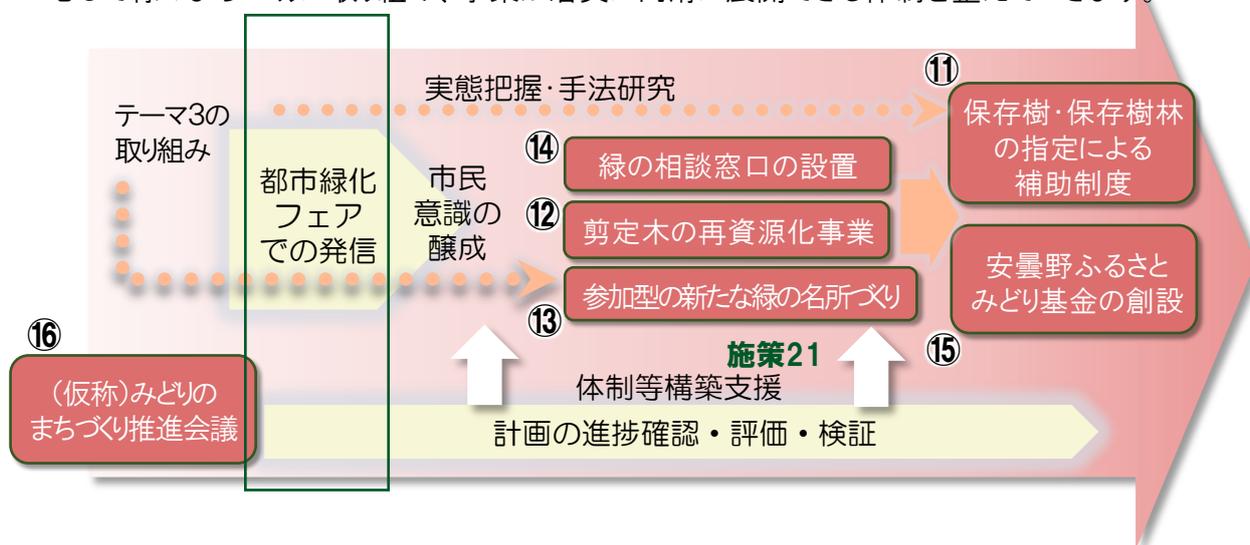


市民参加の花壇づくり



重点テーマ4 身近な緑の育成事業

身近な緑を守り育てる仕組み(相談窓口、保存樹・保存樹林の指定、剪定木の再資源化)を構築しながら、緑のまちづくりを支えるために必要な基盤づくり(都市緑化フェアを契機に官民相互の連携体制、(仮称)推進会議、安曇野ふるさとみどり基金)を進め、市民が安心して緑のまちづくりに取り組み、事業が着実に円滑に展開できる体制を整えていきます。



⑪ 保存樹・保存樹林の指定による補助制度

施策11,12

安曇野を代表する歴史的景観のひとつである屋敷林や社寺林にみられる巨樹、地域に昔からある巨木などは、後世へ受け継ぐべき大切な安曇野の緑であると同時に、その維持管理は巨樹であるがゆえに負担も大きくなります。安曇野の景観上美しい樹木や歴史的な巨木を保全し後世へと継承していくため、保存樹・保存樹林に指定し維持管理費を助成する補助制度の導入を検討します。

- ★初期：実状・実態を調査し、先進他市の事例を参考に、安曇野市独自の制度を研究、検討します。
- ★中期：研究、調査結果をもとに制度の具体化を進めます。
- ★後期：保存すべき樹木を指定し、維持管理費を補助する制度の導入を検討します。また、データベースを作成し随時登録できる体制を整えます。

⑫ 剪定木の再資源化事業(薪配布)

施策10,11

市の市民生活部廃棄物対策課では、剪定木を収集、チップ化し、資源として有効活用を図る「緑のリサイクル事業」を実施していますが、チップ化できる枝の太さ等に制限があります。本取り組みでは、チップ化できない間伐材や太さ8センチ以上の剪定木を既存のストックヤードにて収集し、その後薪ストーブ愛好家に配布する取り組みを実施し、これまで回収できなかった各種剪定木等の再資源化を進めます。

- ★初期：既存の事業をふまえ、新たな事業の実施方法、体制等の準備を整えます。また、新事業について広く周知し、試験運用を開始します。
- ★中期：試験運用結果を踏まえ必要な改善を行い、事業の本格導入を目指します。
- ★後期：実状に合わせて適宜見直しを図りながら、事業の浸透、定着を図ります。

⑬ 参加型の新たな緑の名所づくり

施策6.20

光城山1000人SAKURAプロジェクトのような市民主体による緑の育成活動を支援する仕組みを作ります。将来的には地域の取り組みの中から緑のまちづくりに関するものをプロジェクト化し「緑の名所づくり」への発展を目指します。

- ★初期：既存の事業をふまえ、新たな緑の名所となり得る場所を選定します。
- ★中期：プロジェクト化に向け、関係者や専門家との連携体制のもとでの取り組みをスタートします。
- ★後期：より多くの市民の協力と参加を促す仕組み、体験の場などを企画、提案します。

⑭ 緑の相談窓口の設置

施策13.14

誰もが気軽に安心して緑と親しむことができるよう、緑に関する悩みや相談を受け付ける「緑の相談窓口」を設置します。寄せられた相談には、専門業者(造園業者)と連携してよりわかりやすく具体的なアドバイスを行います。

- ★初期：相談窓口の実施体制を整え、試験的な運用を開始します。
- ★中期：試験運用での課題等をふまえた対策をもとに、本格運用を開始します。
- ★後期：寄せられた相談内容を蓄積、リスト化し、多く寄せられる内容については市のホームページやパンフレット等で情報発信します。

⑮ 安曇野ふるさとみどり基金の創設

施策22

本計画に基づく施策を効果的に事業化していくため、新たに「安曇野ふるさとみどり基金」を創設します。同時に、広く情報を発信することで、緑のまちづくり事業に賛同いただける方々から事業展開に活用するための寄付を募集します。

- ★初期：基金の創設に向けた仕組みの検討等を行います。
- ★中期：基金の運用方法の仕組み、体制づくりを行います。
- ★後期：基金を創設し、緑のまちづくり事業の財源として運用を開始します。

⑯ (仮称)みどりのまちづくり推進会議の立ち上げ

本書第7章 推進体制

本計画に基づいた事業を実行していくため、個別の事業ごとに「(仮称)みどりのまちづくり推進会議」を立ち上げ、みどりのまちづくりを推進するための担い手の創出と育成を目的に、市民・事業者等・行政が連携する場を設けます。また、本計画に基づく事業の進捗状況を評価、チェックするための組織を設置し、課題が生じた際には見直し、改善を図ります。

- ★初期：(仮称)みどりのまちづくり推進会議を立ち上げ、事業の着実な実現を図ります。
- ★中期：中間段階での評価・検証を実施します。
- ★後期：計画の将来目標に対する現状の評価・検証を実施します。

重点取り組み10年間の展開フロー

重点テーマ	No.	重点取り組み	初期			中期			後期		
			H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
重点テーマ1 公園の再生	1	都市公園の新規整備	身近な緑への関心を持つ			個人が主体的な取り組みを始める			より核心的な取り組みを実行する		
	2	まちなか拠点公園の整備	公園管理体制の再編			市民WSなどにより計画を具体化			まちなか公園の充実→新たな拠点公園整備へ		
	3	時代変化に応じた公園の機能改善	ニーズの喚起上げ (子育て世代など)			現状把握・実施準備			新たな緑のつながり (エメラルドライン) の整備		
重点テーマ2 緑化の推進	4	既存並木道景観の再生	緑のまちづくり事業								
	5	まちなか拠点の沿道緑化									
	6	公共施設の緑化推進									
	7	住宅地の緑化推進				身近な緑化への取り組みの継続					
重点テーマ3 緑地を活かした 恵みを感じる活動	8	都市公園の利用促進事業									
	9	緑の恵みを感じる事ができる講座の開催							各種体験型事業の継続実施 緑の情報の効果的な発信		
	10	緑のまちづくりコンテストの開催	意識の向上								
重点テーマ4 身近な 緑の育成事業	11	保存樹・保存樹林の指定による補助制度	緑の恵みを感じる活動 (緑の学習、緑のマップ作り等) 市民意識の醸成			実態把握・手法の研究			新たな緑のつながり		
	12	剪定木の再資源化事業(薪配布)				新たな担い手確保のための結び付け・出会いの場					
	13	参加型の新たな緑の名所づくり									
	14	緑の相談窓口の設置				体制等構築支援 しくみ、運用、体制の研究			事業の円滑な展開		
	15	安曇野ふるさとみどり基金の創設				体制等構築支援 しくみ、運用、体制の研究			体制等構築支援		
	16	(仮称)みどりのまちづくり推進会議				事業推進のための個別会議、進捗確認・評価・検証					

平成31年度春 全国都市緑化信州フェア